

重野まさき議会報告会（11月28日実施）

重野まさき個人の議会報告会を11月28日（土）に産業文化会館で行いました。前半は議会の様子や日々の活動の様子を報告し、後半は参加してくださった皆様と懇親を深めました。ご参加の皆様、ありがとうございました。これからも少なくとも年間1回は報告会を開き、皆様との交流を一層深めていきたいと思っております。その際は参加のほど、よろしくお願いいたします。



市長・教育長への要望書等の提出

この時期当局は、来年度の施策や予算立てを作成しています。それに反映してもらうように市長や教育長へ様々な要望書を提出しました。全てがかなうというわけではないと思いますが、必ず目を通し、思いを受け取ってくれると思います。

11月10日 会派の次年度の施策や予算への要望書を提出

会派として、「再生可能エネルギーの活用」「市の職員定数の適正化（職員数を減らすだけでなく）」「コミセンの設置場所と機能の充実」「子宮頸がん自己検査キットの無料配布」「フッ化物洗口の見直し」「農業振興連絡協議会（仮称）の新設」「潮風公園の整備」「教職員の多忙化解消」「小中学校の指導補助員、介助員の増員」「小中学校各教室へのエアコン設置」「陸上競技場有料化の1年先送り」「原発問題について」などを市長へ要望しました。

11月30日 北園体育館の存続の要望書を提出

中央地区の北部町内会（北園町・桜木町・柏木町・新花町・栄町）として各町内会長さんと一緒に、「北園体育館の改築」、北園体育館を存続し防災拠点として活用できるように市長へ要望しました。

12月9日 陸上競技場有料化に向けての進捗状況の確認と周辺整備の要望

柏崎陸上協会として理事長さんと一緒に、4月からの陸上競技場の有料化について「改修工事を踏まえて有料化の時期や期間券の運用を十分検討すること」と「潮風公園の周回コースなどを整備すること」を教育長へ要望しました。



市議会では「新庁舎建設特別委員会」と「柏崎刈羽原子力発電所にかかわる調査特別委員会」を設置し、それぞれの目的にそって検討しています。議員のみならず市民の皆様も全員が同じ意見になることはあり得ないと思っておりますので、大勢の意見を聞く中で、その最大公約数的なところへ決定事項を落としていけるように議論しています。そして、決まったことを尊重しながら、その中でより良くしていくように、さらに議論を重ねていく議会でありたいと思っています。

「重野まさき後援会」への入会を募集しています。ホームページからも入会できます。

後援会事務所 ☎0257-24-1671 ホームページ <http://www.m-shigeno.net> メール info@m-shigeno.net

★重野正毅はフェイスブックもしています★

人を、まちを、未来を、つなげる 重野まさき通信

第4号 平成28年1月22日発行

発行：重野まさき後援会
事務所：〒945-0072 柏崎市北園町19-47
連絡先：☎0257-24-1671
発行責任者：入澤 稔（後援会内部討議資料）



重野議員の奮闘を讃えて

昨年は多くの皆様のご支援を得て厳しい選挙戦を勝利し市議会に新しい風を吹き込む快挙を成し遂げることが出来ました。あらためてご支援ご協力に感謝申し上げます。ありがとうございました。

さて、重野議員は6月の定例会議を皮切りに9月、12月それぞれの市議会一般質問に立ち、まずは教育環境の整備・充実、スポーツ・文化の振興を中心とする質問・提案を致しました。市長、教育長から適切な回答を得て、市の考えや方向を身近に知ることが出来るようになりました。この9か月の期間は重野議員において大変な自己変革を求められるものとなりましたが見事に乗り越え、市長をはじめ多くの議員からも良識ある頼もしい議員としてのポジションを頂き今日に至っていることは誠に喜ばしいことでもあります。

重野議員はどの政党からの支持も受けない、「オール市民党」として幅広い層の支持を得ながら、元気で魅力ある「まち」柏崎を目指しています。私たちは本年もしっかりバックアップしていきたいと思っています。いま、柏崎市は急激な少子高齢化をはじめ原発再稼働など課題が山積しています。私たちの、いろいろな声や要望を重野議員を通して市議会に、市政に反映させていく「道筋が出来た」といっても過言ではありません。本年もよろしくお願い致します。



後援会長 入澤 稔

12月定例会議終了

本間敏博さんが初めて教育長として出席した定例会議でした。



文教厚生常任委員会の様子

<一般質問の内容>

1 新教育長について

(1) 新教育長選出にあたっての考え

（質問要旨）教育現場経験者ではない方を教育長に選出するにあたっての理由及びこれからの柏崎市の教育の在り方や方向性についてお聞かせください。

（市長答弁抜粋）教育委員会の所管する事務が極めて広範化し一般行政との連携がますます求められていることが背景にある。そのような状況認識のもと教育行政の経験も豊富な一般行政職経験者を任命した。教育委員会事務局内部に在籍している教育現場経験者である学校教育課長、管理主事及び指導主事を通して学校教育現場の考えを尊重しながら、教育行政を進めていく。その上で、学校教育はもとよりスポーツ、芸術文化の振興、生涯学習を含む教育行政全般と、人口減少少子化に対応した子育て環境の充実につながる福祉や地域振興策と密接な連携を図りながら総合的な施策を推進していく。教育の大綱については一昨日に新しいメンバーでの会議があった。基本的な考え方やスケジュールを相談した。市長の責任で今年度中に策定し、公表していきたいと考えている。

(2) 新教育長としての抱負

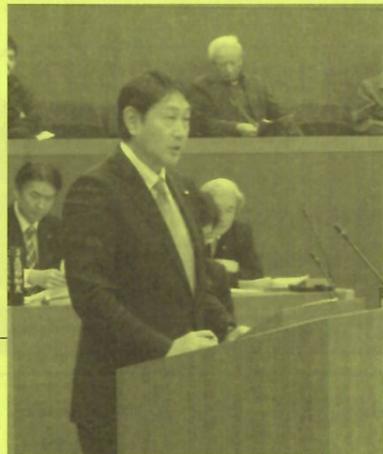
（質問要旨）教育長として今までの柏崎の教育3・3・3運動、学校評議員制と学校支援地域本部事業などを含め、今後の柏崎市の教育をどうとらえ、どのような方針のもとで取り組んでいくのかについて、抱負をお聞かせください。

(教育長答弁抜粋) 教育委員長と教育長を一本化した新たな責任者として新教育長を置くものである。このことはこれまで以上に迅速な危機管理体制が求められ、その責任の明確化も求められている。新教育長としての職務は、これまで以上に重いものがあると認識している。制度改正の趣旨を踏まえ、教育委員会が合議体の執行機関としての機能と役割を果たせるよう的確な教育行政の運営と執行に努めていく。柏崎の教育が明日の柏崎市を支えられる人材を育てるよう、「人づくりはまちづくり」をモットーに人材の育成に力を入れていきたい。将来にわたって活力ある柏崎市を維持し続けるためには次代を担う人材の育成と確保が重要であり、教育の果たす役割は極めて大きいと考えている。これまでの一般行政職員としての経験をもとに、子育て支援の一層の充実を図り、子育てしやすい環境づくりをはじめ、地域特性を生かした魅力ある保育園、学校づくりを進めていく。柏崎の教育333運動にも取り組み、子供たちの生きる力の基盤となるより良い習慣作りに、学校家庭地域が一体となった取り組みを一層進めていく。健康づくりを推進するとともに、競技スポーツの強化を通して地域活性化にもつなげたい。これまでのよさを伸ばしつつ新たな視点や発想をもった教育施策にも積極的に取り組みたい。教職員数のことは、現状の教育現場の実情から、教員の削減は教育現場にとっては最も重要な問題であって、ただ単に子供の数だけで配当するものではないと考える。これからも引き続き国・県に要望していく。



2 柏崎市の学校教育について

(1) 全国学力学習状況調査の結果から見えてくるもの



(質問要旨) 毎年行っている学力学習状況調査ですが、柏崎市の子どもたちの学力定着状況や学習習慣の実態はここ数年間どのような傾向にあるのか、国や県に比べてそれらはどのような位置にあるのかをお聞かせください。また、今までの結果を含めて、柏崎市として毎年同様に表れる特徴などから今後の柏崎市としての教育指導の方向性としてのキーワードやキーコンセプトがあれば、お聞かせいただきたいと思えます。

(教育長答弁抜粋) 今年度の結果としては小学校における学力はすべての教科領域において全国平均を上回っている。中学校では理科が県・全国平均を上回ったが、数学のB問題にやや課題が見られる結果となった。

質問紙調査については、望ましい傾向として、生活習慣、地域とのかかわり、学習意欲などが挙げられた一方、注視していく項目として、メディアの使用、家庭学習時間などが挙げられる。また、ここ数年の結果から、柏崎市の学力は県・全国の平均をほぼ上回り、子供達は「知識」と「活用」の両方でバランス良く学力を身に付けていることがわかる。質問紙調査からは、特に「地域行事への参加」や「地域への関心」については県・全国に比べて大変高く、充実した状況が伺える。教育委員会では、「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」のいずれも大切に「知徳体のバランスの取れた教育」の推進・充実を一層努めていく。

(2) 中学校の部活動指導の外部委託について

(質問要旨) 現在外部指導者の制度や社会体育との連携により以前ほどの部活動への負担感をもっている教職員が多くないかもしれません。しかし、そのことは多忙化とあわせすべて解消されているわけではありません。大阪市では中学校の部活動を教員抜きでもそれまでと同様な活動ができるシステムを先行的に導入しています。柏崎市でも思い切った部活動についての制度などの変更に踏み切っていただきたいと思えます。そのような可能性についてお聞かせください。

(教育長答弁抜粋) 部活動は責任感や連帯感を育むことや友情を深めるというような好ましい人間関係の形成に極めて教育的効果が高い活動である。今は市内小中学校では校長の委嘱により外部指導者として53名の方に協力いただいている。市の「学校運動部活動指導者派遣事業」や県の「スポーツエキスパート活用事業」を活用しながら支援している。外部指導者の活用についてはメリットデメリット双方あるので、民間事業者への外部委託については現時点では課題が多い。学校の教育活動の一環として行われている部活動を民間事業者に外部委託することの是非や社会体育やスポーツ団体、地域や保護者との連携など教育的メリットを考えていく必要がある。大阪市のことは注視していき、他の市町村の状況も確認していく。

<参加した視察の報告>

期 間	場 所	備 考
10月27日(火)～29日(木)	神奈川県・埼玉県・東京都	文教厚生常任委員会
(内容) ①健康遊具で介護予防(神奈川県大和市) ②放課後寺子屋やまと(神奈川県大和市) ③葉酸プロジェクト推進事業(埼玉県坂戸市) ④日本一の読書のまち推進事業(埼玉県三郷市) ⑤介護と医療の連携強化(東京都北区)		

(感想等) 福祉保健と教育関係で先進的な事業を行っているところを視察しました。あわせて、坂戸市と北区の議会の議場も見せてもらいました。すぐに柏崎市に生かせることばかりではありませんでしたが、介護や子育て、教育にはどこの地区も工夫を凝らして取り組んでいました。取り入れられるものは積極的に取り入れていけるように当局に議会として、働きかけていきたいと思えます。また、違う会派の人たちと一緒に時間を過ごすことで、お互いの考え方や物事のとらえ方も理解でき、勉強になりました。柏崎市民の幸せを願っていることに違いはありません。



*「重野まさきオフィシャルサイト」(ホームページアドレス：<http://www.m-shigeno.net> 検索サイトを立ち上げ、「重野正毅」と入力しても出てきます)に視察についての報告を記していますので、そちらもご覧ください。

「会派」市民公開セミナー報告

第1回	10月 3日(土)	障害者差別解消法から共生のまちづくりへ	講師：栗原 治さん
第2回	11月 4日(水)	東日本大震災被災者支援の現状と課題	講師：増田昌子さん
第3回	11月18日(水)	市民エネルギーが拓く新潟の新しい社会	講師：横木将人さん
第4回	12月 5日(土)	原発を再稼働させてはならない理由	講師：松久保肇さん

上記のように会派「社会クラブ・柏崎のみらい」では4回の市民公開セミナーを開きました。それぞれにテーマを決め、講師を呼び講演を聞き、意見交換をしました。共通することは「誰もが安心して、安全に暮らすためにやるべきこと」でした。今回は上記の4つの視点で考えました。障害者や被災者の立場に立ったり、未来のエネルギー開発の現状などを勉強しました。セミナーの様子については「重野まさきオフィシャルサイト」をご覧ください。

